

野辺地町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（概要版）

ポイント

現状分析

- ・当町は「自然減」と「社会減」の両面から、急激な人口減少と少子高齢化が進行している。

将来展望

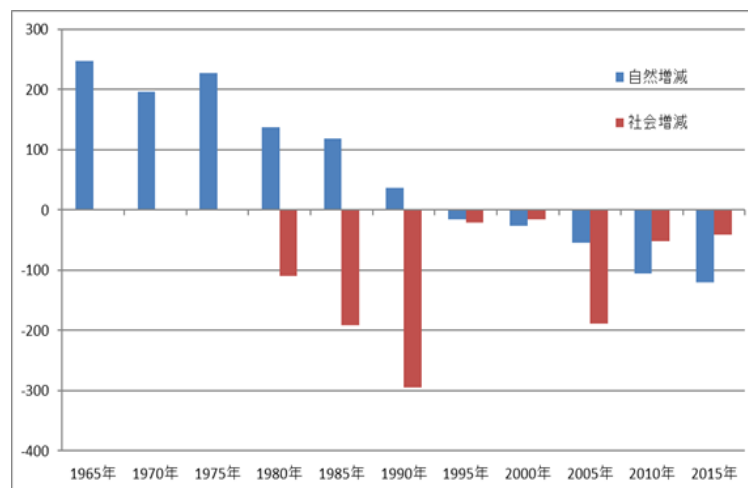
- ・自然減対策では、若い世代が安心して子どもを産み育てられる環境づくりや将来を担う人財育成（社会減対策にも通じる）、社会減対策では、当町の資源を最大限に活用したしごとづくり、若者の定住と町外からの移住促進などを進める必要がある。
- ・このまま推移すると、町人口は **2065 年には 2015 年から 66.5%減少の 4,526 人**にまで減少する見込みだが、施策展開により仮定を実現した場合は、**減少率 49.8%の約 6,800 人を維持でき、老年人口比率も 30%台まで改善**する。

現状分析

人口の推移

- 町人口は 1995 年頃から自然減へ。
- 就学・就職などで県内他市町村や首都圏などへの若者の転出が顕著。自然減と社会減の両方が進行。

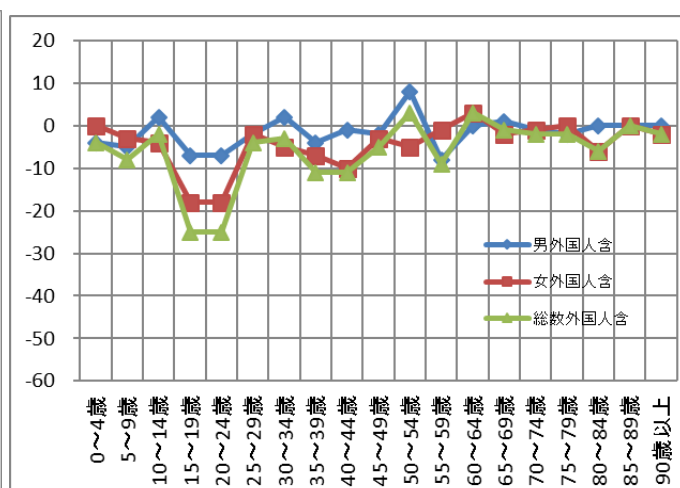
自然増減と社会増減の推移（野辺地町）（単位：人）



資料）総務省「国勢調査」、「住民基本台帳移動報告」

野辺地町統計書「昭和 58 年 4 月版」、「平成 5 年 3 月版」

年齢別社会増減数（2018 年）（単位：人）



資料）総務省「国勢調査」、「住民基本台帳移動報告」

野辺地町統計書「昭和 58 年 4 月版」、「平成 5 年 3 月版」

将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

- 2065 年に町人口は 4,526 人となる見込み。
- 人口減少は段階を経て推移する。当町は、老年人口が増加、年少・生産年齢人口が減少する段階だが、今後は老年人口も減少していくとされる。
- 高齢者一人当たりの生産年齢人口は 1.0 を下回り、一人の高齢者を一人の現役世代で支えられない状況が見込まれる。

「人口減少」が社会に与える影響

- 労働力人口の減少が経済規模を縮小させ、さらなる人口の流出が懸念される。
- 高齢化の進行により、既存の地域コミュニティの維持が困難となるほか、地域文化の伝承にも影響。

将来展望

今後の基本的視点

- 「自然減」と「社会減」が相まって進行する当町の人口減少問題は「待ったなし」の状況。
- 出生率向上に向けた取組と移住促進の取組を官民協働で進め、人口減少のスピードを緩やかなものにしていく必要がある。

社会減対策

目指すべき将来の方向

① 郷土の生業を創る

地域における安定した雇用創出に向け、町の資源を最大限に活用した産業振興、観光振興等により、雇用の拡大を図る。

② 郷土の住みやすさを実現する

全世代が住みよいまちづくりを推進し、転入促進・転出抑制を図る。関係人口を増やすとともに、実際に転入・定住するための補助制度を実施し、人の流れを創出する。

自然減対策

① 郷土の人の身体と心を守る

町の将来を担う世代を育み、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを進める。福祉・保健・医療が一体となり、高齢者が安心して地域で暮らすことができるような取組みを進める。

共通

① 郷土をますます愛し育む「人財」を育てる

生まれ育った町を愛し、その素晴らしさと魅力を町内外に発信するとともに、進学等でいったん町外に流出したとしても、町に戻り、多くの分野で活躍できる人財の育成に努める。

人口の将来展望

目指すべき将来の方向に沿って対策を進め、以下の仮定を実現した場合、総人口は 2065 年で約 6,800 人を維持でき、老年人口比率も徐々に改善されることから、持続可能な地域社会の維持が可能となる。

＜将来展望での仮定＞

- ① 合計特殊出生率…2030 年に 1.8、2040 年に 2.07 に上昇（＝国・青森県ビジョンに準拠）。
- ② 社会増減…2045 年に移動均衡（＝国・青森県ビジョンに準拠）。

